

## UCL IRDR ジェンダーと災害研究センター副センター長らとの共同研究のためのフィールド調査を行いました（2022/7/18-22）

テーマ：被災地調査、国際交流、2011年東日本大震災、ジェンダー、LGBTQ

場所：宮城県、岩手県

2022年7月18～22日、イギリスの University College London（ロンドン大学）の Institute for Risk and Disaster Reduction（UCL IRDR、リスク&防災研究所）ジェンダーと災害研究センターから Punam Yadav 副センター長が、東北大学災害科学国際研究所の共同研究とフィールド調査のため東北大学を訪れました。UCL IRDR ジェンダーと災害研究センターは、設立当初から当研究所研究者と交流があり、COVID-19における国際的な移動が制限された状況においても、COVID-19と社会的脆弱性の強いグループの人々の研究に関する共同研究のためのマッチングファンドの獲得などの連携を継続していました。

今回のフィールド調査では、東日本大震災後の女性のリーダーシップと防災活動、東日本大震災後の女性のエンパワーメント、被災地の女性の災害後の状況、そしてLGBTQの方々の防災計画についての知見を深めるために、宮城県、岩手県を訪問しました。訪問に際して、北村美和子特任研究員：助教（国際研究推進オフィス）、サッパシー・アナワット准教授（津波工学研究分野）、マリ・エリザベス准教授（国際研究推進オフィス）がコーディネートしました。

女性のエンパワーメントと災害について、仙台男女共同参画センターへ訪問し、避難所で生活を行っていた女性の要望にこたえるためにはじまった、女性の下着の洗濯を行うボランティアネット、震災後女性視点での防災が行われるような環境づくりを目指した女性リーダー育成プログラムなど、同センターが東日本大震災後に行ってきた女性支援について情報共有をしました。その上で、UCL IRDR ジェンダーと災害研究センターと仙台男女共同参画センターで女性のリーダーシップと減災について調査の連携を行うことを議論しました。

また、南三陸ホテル観洋の女将阿部憲子氏に女性のリーダーシップと地域防災、地域活性化のヒアリングを行い、震災復興と地域女性の役割について貴重な話を伺いました。そして、岩手県大槌町のNPOが運営する「復興食堂」のおかみを経て、2013年から語り部ガイド、復興支援のNPOなどの経験をお持ちの大槌町の岩間敬子氏に、東日本大震災発災時の状況や震災後の活動についての話を伺いました。特に災害発災時に女性が家族単位で避難を行うことが多いことなど、東日本大震災の時の体験をもとに詳細な状況説明を伺い、女性の避難行動を速やかに安全に行うための議論を行いました。さらに大槌町吉里吉里地区の吉祥寺では、住職の奥様から、東日本大震災発災直後からお寺が緊急避難所になった経緯や、避難所運営に女性がどのような役割を担ったのかなどについて話を伺いました。具体的には、避難をしてきた方々の食事作りの際に感染者を出さない工夫や、メニュー作りや健康の維持などに女性が大きな役割を担っていたことが理解でき、当時の日誌やメニュー表等貴重な資料があることもわかりました。これらの資料を今後UCL IRDR ジェンダーと災害研究センターと共に分析調査を行うための話し合いも行いました。

21日に行われたUCL IRDR ジェンダーと災害研究センターと当研究所の初のワークショップでは、Punam 副センター長をはじめ、日本におけるジェンダーと災害研究の第一人者である池田恵子教授（静岡大学教育学部地域環境防災分野）、斉藤容子主任研究員・准教授（関西学院大学災害復興制度研究所）から、日本における女性の防災リーダーや日本の防災教育についての発表がありました。また、東北大学男女共同参画センター李善姫講師から、日本に居住する社会的脆弱性の強い外国人女性への東日本大震災後の影響について、キーノートスピーチとして、長年障害者の災害研究を行ってきた立木茂雄教授（同志社大学社会学部）から、東日本大震災の被災者の方々の心の復興に関する研究の話がありました。さらに、LGBTQの方々のサポートを行っている宮城県・性と人権ネットワークESTOの内田有美氏、レインボー・アドボケイツ東北小浜耕治氏、Women's Eye 栗林美和子氏、防災科学技術研究所の松川杏寧氏の参加のもと、社会的脆弱性が強いグループに属する人々の減災の課題について意見交換を行いました。今回来日できなかった、UCL IRDR ジェンダーと災害研究センター長のモウリーン教授もオンライン参加しました。

（次頁へつづく）

東北大学本部での会議では、今後の本格的な共同研究や学生間の交流について、東北大学植木俊哉理事・副学長、山口昌弘副学長、国際戦略室副室長米澤彰純教授ら、そして当研究所の今村文彦所長、サッパシー准教授らと、活発な議論が行われました。具体的には、当研究所の災害レジリエンス共創センター、防災科学技術研究所、そしてUCL IRDR ジェンダーと災害研究センターとの共同研究が決定し、更なる当研究所と UCL IRDR とのジェンダーの視点を用いた防災研究への意欲を表明しました。

文責：北村美和子、マリ エリザベス、ボレー セバスチャン（国際研究推進オフィス）  
サッパシー アナワット（津波工学研究分野）



南三陸ホテル観洋の阿部様からのヒアリング



岩手県大槌町吉里吉里地区の吉祥寺を訪問



東北大学本部での会議にて



当研究所セミナー室にて